



上向台小だより

5月号

西東京市立上向台小学校

令和4年4月28日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai>



遠足は学級づくりの絶好のチャンス

校長 町田元彦

新緑のまぶしい季節を迎えました。本校のシンボルでもあるメタセコイヤが、美しい緑の葉を付け、天に向かってまっすぐに伸びています。

1年生は入学、他の学年は進級して約1か月が過ぎました。どの学年も学級編制がありましたが、子どもたちの様子から、新しい教室、新しい友達、そして新しい担任にも、少しずつ慣れ、緊張感もほぐれてきたように思います。

例年、この時期に行う行事として、子どもたちが楽しみにしている遠足があります。本校でも、各学年の発達段階に応じた候補地を挙げ、春の遠足を計画してきました。コロナ禍のこの2年間は、どの学年も、時期や行き先を変更して実施してきました。

今年度も4年生が、先日、行き先を小金井公園へ変更し、楽しい春の一日を過ごしてきました。

「遠足」とは字を見てのとおり、明治時代から、学校から遠くまで歩いて行く校外学習とされてきました。近年では、公共機関も使用するので、集団行動や公衆マナーも目的の一つとしています。もちろん、校外学習ですから学校施設内では体験できない自然に触れることで、豊かな心、思いやりの心を育むことも目的としています。

春の遠足には、更なる目的があります。生命の息吹を動植物から感じる春。この躍動的な春の自然に合わせて、子どもたちの入学・進級に伴う意欲を、一層高めさせたいと思います。もう一つは、新しい学年、学級の基盤づくりです。学校とは違い、時間と空間が開放的な場で、新しい友達と触れ合うこと、

新しい学級集団で集団ゲームなど楽しい活動をするこで、1年間の活動意欲を沸かせ、学級の連帯感・一体感を芽生えさせる絶好のチャンスととらえています。

子どもたちが楽しみにしている遠足を一層ワクワクさせる重要なアイテムは、お弁当やおやつかもしれません。レジャーシートの上で食べるお弁当やおやつの子どもの笑顔は、いつの時代も変わりません。私が子どもの頃に感じた、駄菓子屋に百円玉を握りしめて、おやつを買いに行くときの嬉しさや、お弁当箱を開けるときのワクワク感は、何十年を経過した今でも脳裏に焼き付いています。

先日遠足に行った4年生も、おしゃべりはできませんでしたが、とびきりの笑顔でお弁当やおやつを楽しんでいました。

日頃、お忙しい保護者の皆様ですが、ほんの少し、お子さんがお弁当箱やおやつを袋を開ける瞬間をイメージしていただければ嬉しいです。

今年度も、11月に移動教室に行く6年生以外は、春の遠足を計画していますが、今後のコロナの感染状況を十分に考慮して、時期や行き先を決定していきたいと思います。子どもたちの安全を最優先し、状況によっては、公共交通機関の使用は避け、徒歩で行ける場所も検討していきたいと思います。

どうぞ、連休中もお子さんの健康管理には十分にご留意され、遠足という思い出の一ページを、子どもたちの心に鮮明に残せるよう、引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。